

The 18th ICOM Newsletter



第18回国際東洋医学会学術大会・見どころ、聴きどころ

4月15日(金)

日独漢方鍼灸シンポジウム 4月15日(金) 14時～18時 スポンサーシンポ(後藤学園) 会議室 A1

日本の漢方医学は独自の体系を持ち、一元的医療制度の中で、西洋医学との統合医療を成功させています。同じく一元的医療制度を有するドイツで漢方医学や鍼の診療や研究に携わっている臨床家や研究者をお呼びし、未来のこの医学の形を探ります。

座長：元雄良治先生(金沢医科大学)・ハイトルン・ライセンウェーバー先生(ミュンヘン)

セッション1・加島雅之先生(熊本赤十字病院)：日本の漢方医学の構造と特質

セッション2・牧野利明先生(名古屋市立大学)：漢方医学で用いられる生薬の活性成分のコンセプト

セッション3・クラウディア・ヴィット先生(チューリッヒ大学)：鍼の臨床研究について

ドイツなどからの参加者：H.ライセンウェーバー先生(ミュンヘン)、U.エーベルハルト先生(マドリッド)、S.キャメロン先生(グッティンゲン)、B.コストナー先生(ウィーン)、S.シュレーダー先生(ハンブルク)、K.ハンブレヒト先生(ハナウ)、H.ラウシュ先生(ノイウルム)、C.ヴィット先生(チューリッヒ)、K.クフタ先生(ライプツィヒ)

日本からの参加者：並木隆雄先生、山岡傳一郎先生、高山真先生、形井秀一先生、山下仁先生をはじめとし、日本全国の医学・薬学・鍼灸を代表される約20名の先生方がこの論議に加わります。

セミクロズドのシンポジウムですが、聴講は自由ですので、ぜひおいでください。

4月16日(土)

招待講演：顔焜榮先生「顔氏の漢方」4月16日(土) 9時～10時 会議室 A1

今年91歳になられる顔焜榮先生が、日本の方々に贈られるメッセージです。故・大塚敬節先生が、顔先生のお話を聞いて感心され、これは「顔氏の漢方」と提唱されるのが良いであろうといわれた、顔先生独特の漢方医学の姿を、今回初めて日本でお聞きできる貴重な時間です。顔先生が長期間にわたって築き上げた独自の漢方医学をどうぞお聞きください。

特別講演 4月17日(日) 13:05-14:00 会議室 A1

佐藤弘先生(日本東洋医学会会長)

日本東洋医学会の歴史と展望

佐藤先生は、日本東洋医学会会長として、この学会がたどった歴史とそれを踏まえた将来の展望を、国際東洋医学会で初めて話されます。私たちには周知でも、韓国や台湾の方たちにとって、はじめて聴く話でしょう。

医学系シンポジウム 4月17日(日) 14:05-16:00 スポンサーシンポ(クラシエ薬品):会議室 A1

コーディネーター：加島雅之先生(熊本赤十字病院)

座長：ジルケ・キャメロン先生(ドイツ)・高山真先生(東北大学)

伝統医学分野でも質の高いエビデンスの構築が必要といわれて久しいですが、質の高いエビデンスが十分に世に出てきているとはいえない状況です。それは、伝統医学分野で質の高いエビデンスを構築するためには、伝統医学のもつ特性、それを臨床疫学的に評価するための方法論の工夫が必要となります。そこで、日本・韓国・台湾で伝統医学分野のエビデンス確立のために実際に活躍している第一人者をお招きして伝統医学の臨床試験をする際の注意点とよりよい研究を行うためのコツを討論し、今後のエビデンス構築のための方法論を探ってみたいと思います。

シンポジストとして、韓国から Seong-Gyu Ko 先生(慶熙大学)、台湾から Chen-Jei Tai 先生(台北医科大学)、日本から木村洋子先生(東京女子医科大学)が参加されます。

伝統医学分野の臨床試験を行いたい方のみならず、伝統医学分野の臨床疫学的データの解釈のためにも必聴のシンポジウムです。

教育講演 4月17日(日) 13:05-15:00 会議室 A2

教育講演 7 (14:15-14:45)：Chien-Tung Wu先生(Taipei City Hospital, Taiwan)

統合医療によってⅡ型糖尿病患者の乳がん罹患リスクを軽減させる症例対象研究

教育講演 8 (14:50-15:20)：Wen-Fed Chiou先生(Ministry of Health and Welfare, Taiwan)

エビツル(Vitis thunbergii)の骨粗鬆症に対する有益な効果

教育講演 9 (15:25-15:55)：廣瀬康行先生(琉球大学、日本)

ISOの現状1：用語や概念とそれらの持つ力

教育講演10 (16:00-16:30) ハンス・ラウシュ先生(ドイツ)

ISOの現状2：漢方医学・中医学・東洋医学に関するプロセス

日本セッション:4月17日(日)10:00-12:00 会議室 B1(日本語)

コーディネーター：萩原圭祐先生(大阪大学)・中田英之先生(練馬総合病院漢方医学センター)

お2人の進行で、近年急速に脚光を浴びつつあるフレイルに対する東洋医学の観点からのアプローチを討論されます。田上真次先生(大阪大学)、寺本仁先生(あおい薬局)もシンポジストとして参加されます。

招待講演4 4月17日(日)16:05-16:35 会議室 A1

二宮文乃先生：皮膚の治療を行うことによって全身の病気を治す

二宮先生は、65年余に及ぶ長い臨床経験の中で、これまで難治だったいくつかの疾患に対し、皮膚に適度な刺激を与えるだけで大きな治療効果が得られることを発見されました。その新しい治療法を、この学会で初めて公開されます。

第18回国際東洋医学会学術総会の最後を飾るにふさわしい、素晴らしいご講演になるでしょう。

市民公開講座(日本語):市民の方のための無料講座 4月17日(日)15:05-16:30 会議室 B1

梁哲成先生(沖縄市、やんハークリニック)：漢方 Q&A

仲原増夫先生(那覇市、仲原漢方クリニック)：なぜ現代においても漢方は必要とされるのか？

市民の方も、医療関係の仕事に携わっておられる方も、どうぞご自由にご参加ください。

The 18th ICOM Newsletter 2016 No.2

発行日 2016年3月7日

編集者 ニュースレター編集委員会

発行者 安井廣迪

発行所 国際東洋医学会日本支部 (ISOM Japan)

国際東洋医学会日本支部

名古屋市瑞穂区田辺通3-1

名古屋市立大学薬学部生薬学分野内

TEL & FAX 052-836-3416

Email: icom-japan@phar.nagoya-cu.ac.jp

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>

鍼灸系シンポジウム 4月16日(土) 10:00~11:55 スポンサーシップ(セイリン) 会議室 A1

コーディネーター：山下仁先生(森ノ宮医療大学)・ベンジャミン・チャント先生(オーストラリア)

灸療法は、東アジアの各国で鍼療法と同様に長い時間をかけて独自の発展をしてきましたが、その具体的な内容の違いは鍼灸法ほど知られていません。そこで本シンポジウムにおいては、日本、韓国、台湾の灸臨床に従事しているエキスパートの先生方を招いて、それぞれの国における灸療法の特徴と臨床応用を紹介していただき、情報を共有することを企画しました。このことによって、灸療法に関する共通理解が得られ、鍼灸法とともに臨床・研究・教育がグローバルな視野で展開していくことを期待しています。韓国、台湾、日本、オーストラリアからのゲストが、それぞれ自国の灸を紹介し、今後の臨床に生かすためにそれらの特徴を比較分析します。

Dong Woo Nam 先生(慶熙大学、韓国)：韓国の灸治療

Tee-Hung Huang 先生(台湾)：太りすぎの若年女性に対する灸の効果・台湾の経験

真鍋昭生先生(愛媛県立中央病院、日本)：愛媛県立中央病院における地域社会での灸の現代的応用

ベンジャミン・チャント先生(ニュィクワッド大学、オーストラリア)：オーストラリアの鍼灸師の灸に対する展望

ランチョンセミナー 4月16日(土)12:05 - 13:00 スポンサーシップ(株式会社ツムラ) 会議室 A1

鹿児島大学の乾明夫先生によるご講演。「食欲不振・悪液質と漢方医学」について、この研究分野の第一人者であられる乾先生が、最先端の研究内容をご紹介します。

薬学シンポジウム 4月16日(土)13:05 - 15:00 スポンサーシップ(小林製薬) 会議室 A1

コーディネーター：牧野利明先生(名古屋市立大学)、王静瓊先生(台北医科大学)

伝統医学の処方の中に配合される生薬の役割を解析する試みは、これまで多くの人々によってなされてきました。しかしながら、漢方医学の基本をなすこの領域の研究は、いまだ十分な成果を上げたとは言えない状況にあります。今回、日本、台湾、韓国、中国の研究者が集い、最新の研究成果を持ち寄り、新たな視点でこの研究分野に切り込みます。

日本からは**牧野利明先生**が小青竜湯と白虎加人參湯における芍薬や石膏の役割を解き明かす研究を、韓国からは、**申舜植先生**が軽身丸について、台湾からは**王静瓊先生**が独活寄生湯について、中国からは**王喜軍先生**が茵陳蒿湯について、それぞれ最近の研究を紹介されます。

教育講演 4月16日(土) 午前-午後 会議室 B1

教育講演 1 (10:15-10:45)：

クラウス・ハンブレヒト先生(ドイツ)

SMS と DÄGfA に見るドイツにおける鍼の発展

SMS (Societas Medicinae Sinensis) は、35 年余の歴史を誇るドイツの中医学の中心学会。現在ミュンヘンを中心に活動しています。DÄGfA (ドイツ鍼術協会) は、1951 年に創立されたドイツの鍼灸学会で、60 余年にわたる歴史の中で、ドイツの医学界に多くの貢献をしてきました。もはやドイツの中でゆるぎない地位をもつこの 2 つの学会について、ハンブレヒト先生が解説をしてくれます。

教育講演 2 (10:50-11:20)：

ハイトルン・ライセンウェーバー＝ヘーヴェル先生(ミュンヘン工科大学)

漢方インターナショナル・ISJKM の活動とドイツにおける医師に対する漢方医学教育

ライセンウェーバー先生は、北里研究所・東洋医学総合研究所での漢方医学・鍼灸の研鑽を積まれたドクターで、4 年前に ISJKM (国際日本漢方医学学会) を立ち上げられました。今回は、その学会における活動と、DÄGfA における医師向けの漢方医学の教育活動について話されます。

教育講演 3 (11:25-11:55)：

ケニー・クフタ先生(植物療法学会、ドイツ)

ヨーロッパの植物療法

ドイツには、生薬を使用する植物療法の長い歴史があり、それは、1970 年代にルドルフ・ワイス先生によって体系化されました。現在、ドイツ、オーストラリア、スイス、イタリアの 4 カ国でこの学問は盛んに研究されています。クフタ先生は、歴史的な観点からこの医学を解説される予定です。

教育講演 4 (13:05-13:35)：

ベルント・コストナー先生(ホリスティック医学センター、オーストリア)

オーストリアで漢方医学を教えることから得られるもの

コストナー先生は、音楽の都・ウィーンで漢方医学を中心に診療をしておられます。診療の傍ら、オーストリアのいくつかの大学で漢方医学の講義をしておられます。今回は、その講義のご経験をお話しいただきます。

教育講演 5 (13:40-14:10)：

Joon-Seok Byun 先生(大邱韓醫大、韓国)

韓医学の現在の状況と発展

韓医学の最先端にあって、広い視野をお持ちの Byun 先生が、韓医学の現状分析と未来の姿を語られます。

教育講演 6 (14:15-14:45)：

In-Tae Kim (金仁泰) 先生 (Jangdeuk Korean Medical Hospital, 韓国)

がんの治療における代替医療の役割・韓医学の枠組みから

金仁泰先生は、四象医学の大家。がん治療に果たす韓医学の役割について、広い観点から論じてくれます。

韓国セッション:4月16日(土) 会議室 A2

10:00-12:00四象医学シンポジウム(英語)：

金鎬淳、金仁泰、車誠原、金相赫の各先生が四象医学の細心の知見を紹介。日本からは廣田嘩子先生が講演

13:00-16:00：第21回日韓東洋医学シンポジウム(日本語・韓国語)：

崔道永、金英信、吉富誠、李法宗、盧永範の諸先生が講演

台湾セッション:4月16日(土) 会議室 B2

13:00-14:55 林昭庚教授の特別講演：針麻酔における EBM (英語)

15:00-17:55 最新の臨床経験を、施純全・陳潮宗・陳俊明・李豊裕先生・陳志芳先生の諸先生が紹介されます。

一般講演 4月16日(土)15:05-17:50 会議室 B1

一般講演 1：エリック・プラント先生 15:05-16:00 (香港浸会大学、香港)

同一中薬(生薬)名での基原植物の混乱～中薬の基原の歴史の変遷を明らかにすることの重要性

プラント先生は、ISO/TC249 のアメリカ代表として活躍しておられ、現在は生薬鑑定学に関する研究で Ph. D. を取得するために、香港浸会大学中医薬学院に留学中です。このご講演では、歴史的にみた生薬の基原を明らかにすることによって、現代の生薬学の位置づけを行う試みを聞かせていただけるでしょう。

一般講演 2：“宮城県および福島県における東日本大震災後の漢方医学” スポンサーシップ(大峰堂薬品工業)

高山真先生(東北大学) 16:05-16:55：東日本大震災後に漢方医学が果たした役割

沼田健裕先生(東北大学)：東日本大震災後の PTSD に対し柴胡桂枝乾姜湯を使用した RCT

東日本大震災が人の心と体に及ぼした影響は大きく、未だ解決に至りません。高山先生と沼田先生は、震災直後から被災地で診療を行ってこられた経験をご講演になります。

一般講演 3：伊藤壽記先生(大阪大学) 16:55-17:50

日本における統合医療の現状と展望

日本における統合医療の第一人者であられる伊藤先生が、この医学の未来の形を話されます。

藤門会 in Okinawa(日本語・中国語) 4月16日(土) 12:00-16:00 会議室 C1

藤門会は、故・藤平健先生の門にあって研鑽を積んでこられた方たちが育てられた会。今回は、特別に沖縄に会場を移し、台湾からもゲストをお呼びして行う「拡大藤門会」。会員に限らず、広く門戸を開けているので、どなたも参加できます。**並木隆雄先生・福田佳弘先生・頼建守先生・鍾箴禮先生・鄭宏足先生**らが、会をリードされます。テーマは大承気湯で、この処方が、想像以上に広い応用範囲を持つことが明らかにされます。

薬剤師向け漢方講座(日本語):4月16日(土)16:10-17:00 会議室B1

中村克徳(琉球大学附属病院薬剤部)：生薬・漢方薬・機能性食品と医薬品の薬物相互作用について

牧野利明(名古屋市立大学大学院薬学研究科)：漢方エキス製剤の特徴を知り、服薬指導に生かす

4月17日(日)

会頭講演(9:00-9:55):会議室 A1

大野修嗣先生(18thICOM 大会長)：

リウマチ性疾患における漢方治療の役割について

招待講演2(10:00-10:55):会議室 A1

ギャリー・デン先生(スロンケタリング記念がんセンター、アメリカ)：

アメリカにおけるがん患者のメディカルケアと伝統医学の統合

招待講演3(11:00-11:55):会議室 A1

イ・ヘジュン先生(KIOM プレジデント、韓国)：

韓医学の発展における挑戦とチャンス

ランチョンセミナー 12:05-13:00 スポンサーシップ(オースギ・クラシエ・コタロー) 会議室 A1

スヴェン・シュレーダー先生(ドイツ・ハンブルク大学)

鍼による即時除痛効果・円皮針によるプラセボを用いた RCT